

沙 流 川

保護者向け校長通信

NO. 15

発行日
令和6年 3月29日

子どもたちの成長と 感謝の気持ちを込めて

令和5年度もあと2日で終わりを迎えます。今年度は、富川小学校開校150周年記念の年でした。今年の卒業生の最後の子は、第9791号でした。後、209人が卒業を迎えると1万人となります。現在の児童数の状況を見ると、来年度入学してくる1年生が卒業するところが、記念すべき「1万人達成」となる予定です。その頃には、学校教育や社会の様子も、さらに大きく変化していることと推察いたします。

令和5年度は、大きな行事に「開校150周年記念」という「冠」を付けて学校行事等を実施してきました。現場にいと、コロナ禍の3年間、工夫しながら実施してきた教育活動ですが、その影響がどれだけあったのかを実感させられました。これまで、子どもたちが当たり前に行っていたことが、縮小や縮減によりできなくなっていることが多くありました。

影

- 話したいことを正確に伝えることができなかった
- 全体で集まったとき、「話を聞く態度」が悪かった
- みんなの前で大きな声で発表することが苦手だった

響

- 学習に向かう気持ちが続かなかった
- 難しいことにぶつかると、すぐに諦めてしまっていた
- けんかやもめ事が多くあった など

令和4年度の後半から、このような様子が見られたことから、日常の学習の中で「相手意識を持った行動」や「話をしっかり聴く態度」ということを全学年共通の指導内容として取り組んできました。昨年5月にコロナが5類になり、全校で集まれる機会がより一層増え、回数を重ねるごとに、話の聴き方が素晴らしく成長していました。また、授業を見て回ると、発言している子どもの方を見て話を聴いたり、頷きながら話を聞いていたり、最後まで話を聴いてから自分が話したりする姿も見られるようになりました。ただ「話を聴く」ということですが、全ての活動は、ここがスタートです。何をしたらいいのか、どうしたらいいのか、何をすればいいのか等、活動するために必要なことを習得して取り組みを進めていくこととなります。「話を聴く」という当たり前のことですが、子どもたちは、本当に素晴らしく成長することができました。

終わりになりますが、「校長通信」を通して、学校の経営方針や学校課題、保護者や地域の皆様に富川小学校の教育内容の情報等を提供させていただきました。十分な物とはいえませんが、これからも「地域の学校」として、未来ある子どもたちの指導に教職員一同、「誠心誠意」取り組んで参りますので、皆様方の温かいご支援を今後ともよろしくお願いいたします。1年間、ありがとうございました。